



和  
漢  
增  
補  
畫  
本  
寶  
鑑

七



絵本寶鑑巻之目録

六十九

韓夫人

七十一

東坡

七十三

瘴

七十八

子幼伯牙

七十七

下和之璞

七十九

八景

八十一

那右海

七十

寶華

七十三

秦始皇

七十四

七夕

七十六

王昭君

七十八

倪寛

八十

春月

八十二

佐野後

繪本卷二

八十二

福祿来

千三

念力色思

八十五

昌黎韓杜

千六

麻馬岩

八十七

田知

千一

馮媛

八十九

信申一信

九千

孔子十哲

九千一

遊時

九千二

一眼之飛

九千三

日貫月洞

九千三

山谷

九千五

月茂叔

九千六

三法行

九千七

貨秋

九千八

楊宅黃雀

字九 韓夫人

韓夫人ハ唐ノ徳宗ノ宮嬪ナリ。或時紅葉小引曰  
 懸懸浦ヨリ家好去到人間と云く淨海の中ニ  
 かがききこり。紅葉あはれく。外音よこりしり  
 干祐と云は下とれとひろひ直の事よ。あ  
 とおのひりばすあらし干祐も又紅葉よゆ哉  
 ちく海より致の芳あり。水よりさゆあはれ  
 宮中へゆきつては。韓夫人又極ひゆり。終り  
 夫人。宮へ入りしとゆり。干祐の妻となる。  
 秋のつり方知紅葉ハ良媒ありと。そらり云く  
 紅葉れなるとらと云ふあり



七千

寶篋

寶篋 隱者とゆふ小遇 日籬外消し 流水流 椗花寸照夕陽收 欲

歌名字知ぬ物又恐芭蕉不耐秋これ詩の心  
隠者乃何し何れ河ると海とさるる水ハ剛  
よあぐれ籠ハ椗子因らせ日もやりに西山は春  
まうばその新中照りけり花例の色蕉よ春  
色と喜く得ひ身事とさるるんとたりて  
芭蕉ハより子よあまは風よやうとく物  
るさるて書せばしとゆりぬ書をけりや  
あまの意の也暑うらうと小芭蕉の物  
あまのいと撮りし物んと歌  
御うきう



七十一 東坡

東坡居士名蘇軾字子瞻一曰子瞻。宋仁宗の  
景祐三年丙子十一月十九日卯時生。年六十八  
卒。徽宗建中靖國元年卒。眉山人也。仁宗

嘉祐二年始。京。身以歐陽文忠公考試の官。り  
時。蘇軾が文と。り。移。子。り。ん。て。曰。老。吏。當。小  
び。人。と。強。く。一。地。よ。好。む。と。し。仁。宗。奉。勅。て。内  
官。と。ら。ん。ん。王。安。石。と。云。人。組。で。接。け。し。蘇。軾。外  
官。と。乞。て。抗。列。子。通。判。り。り。そ。後。抗。列。り。密。列  
小。徳。以。又。徐。列。子。後。以。又。湖。列。子。知。り。御。史。舒。亶  
宰相。王。珪。等。小。謗。ら。り。て。黃。列。國。練。副。使。の。官。と。云。  
時。蘇。軾。高。中。芒。履。と。着。笠。履。と。着。あ。り。て。  
田。夫。野。老。と。お。交。り。く。自。樂。し。め。り。故。小。笠。履。と  
着。る。所。と。号。す。室。と。東。坡。と。号。す。築。く。こ。つ  
か。東。坡。居。士。と。號。せり。



七十一 秦始自王  
 始皇帝の時俄くありしよ松の陰に立寄る  
 そのと記松竹とさわくぬとふとぎしは松よ  
 太ま乃官とさけをらねとあり



七十三

愛

驚きとつあまのいぶたに雲紅乃を丹の足付の夜あ  
あまのこしとちりし。なを井のあしとと縁宮と云  
大略風風もいなり。世太平の日はおはしなり

七十

七夕

織女天帝の姫女ありその御宿夏庭麻行へ  
河の東よゆりくや幸し芳夜去く機梭女  
工とあし。雲霧あま納庭の夜と織成りて  
辛苦のこ小ゆしくて。秋夜とくらふこくき事  
とまよゆもいふれとふく。空能とも想  
想らぬあし。天帝流石悪むのいひたれん

其独

自辰

多

ひ

人

と

お

な

と。憐悃冷ひて。河西牽牛小めありせらふ。嫁し  
まひてのち。竟小織経の工とらて。歡と念具て  
やこゝぬらん。天帝これときこしめその。嫁記あり  
る。と。い。り。冷。ひ。妻。と。く。河。東。の。星。小。お。な。  
ま。い。け。く。や。う。な。く。一。年。よ。つ。夏。牽。牛。と。お。な。せ  
と。ありし。は。痛。り。や。あり。ぬ。神。と。ひ。き。ま。れ  
て。河。の。東。乃。あ。さ。ち。ざ。り。と。い。さ。ま。ち。あ。し。と。  
う。つ。り。か。つ。ま。り。り。さ。海。人。男。け。と。か。ざ。う。び。  
好。因。縁。を。思。因。縁。と。あり。冷。ひ。ぬ。又。七。月。七。の  
小。な。あ。れ。と。ち。吳。均。が。事。記。小。し。く。桂。湯。城。

このかこころのみ武丁とつれ人あり。も才子さいしと  
 曰七月七夕織女オリヒメ何と後く。暫しばしば幸あはれは小話こたわの  
 ばし若わか仰あやよとあり。居ゐる世人よひ今いま小玉こたまとく織女  
 繋つなまよふ嫁よめとと云いつれと也なり。一ひとれうり世人よひみる  
 繋つなまよふ織女オリヒメ七月七夕オリヒメね今いまと云いわゆる  
 なる。昔むかし言い故ゆゑ変へふ見みえさるるも又また孫まご子こ伯はく  
 陽やうつれ夫婦夫婦のほみちさう。つれ子こ所ところあるも  
 月つき小こ話たわ言いて二ふた川の星ほしとあり。孫まご子こ八やち丈ぢやうあり。  
 伯はく陽やう八やち丈ぢやうなることつれ子こ所ところあり。つれ子こ所ところ  
 ありき。これ寓あや言いなるをせし。

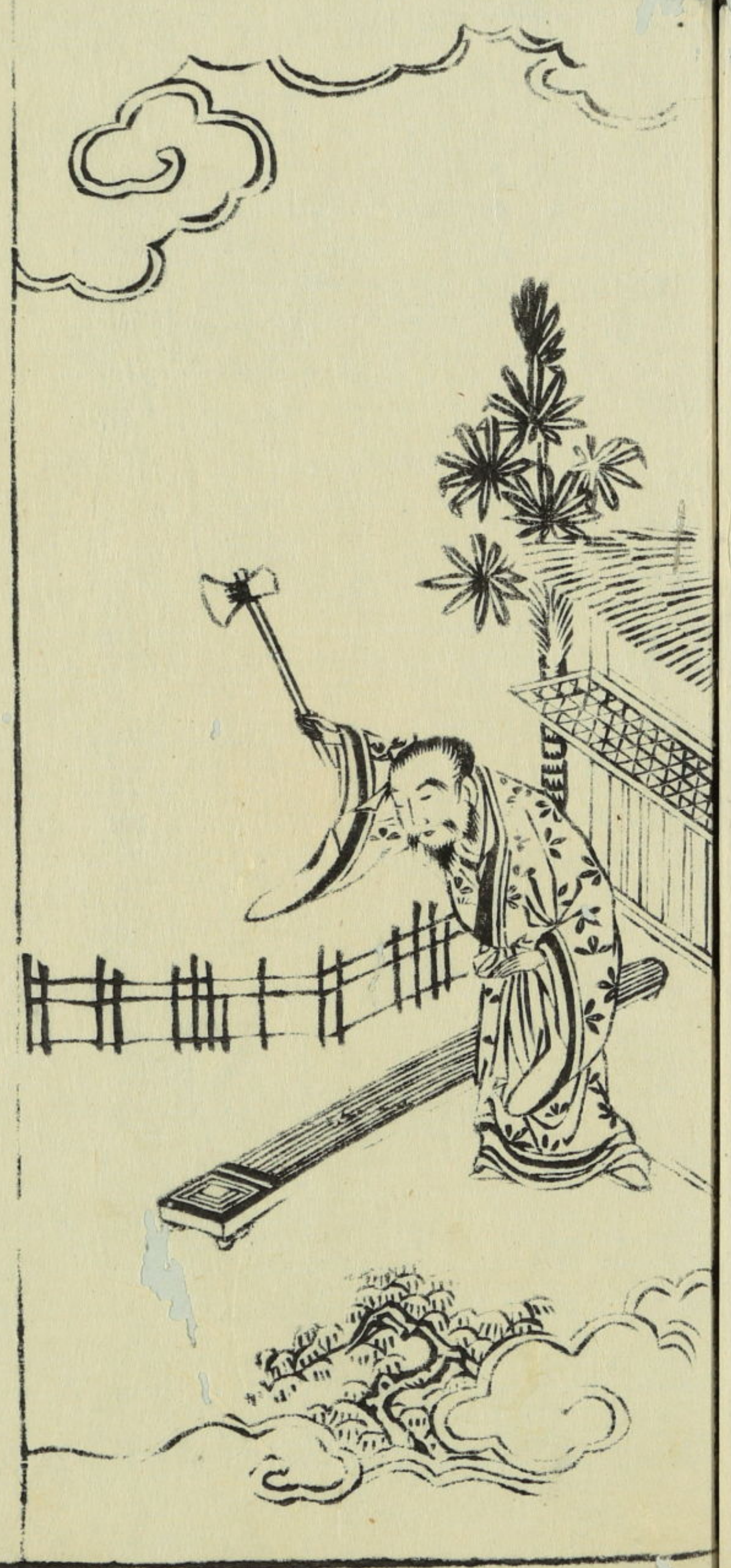




七十八 子期伯牙

子期伯牙は二人ハ琴乃と子あり。子期死しては  
 伯牙琴の弦と断たせり。琴と浮世に事と知り  
 友の死に悲しむるあり。伯牙琴と浮世に事と知り  
 とつふはばな事あり。伯牙琴と浮世に事と知り  
 山よけり。死に悲しむるあり。伯牙琴と浮世に事と知り  
 志願水あり。伯牙琴と浮世に事と知り  
 伯牙が云々。山流水の世といふ

世の  
 世を侍り

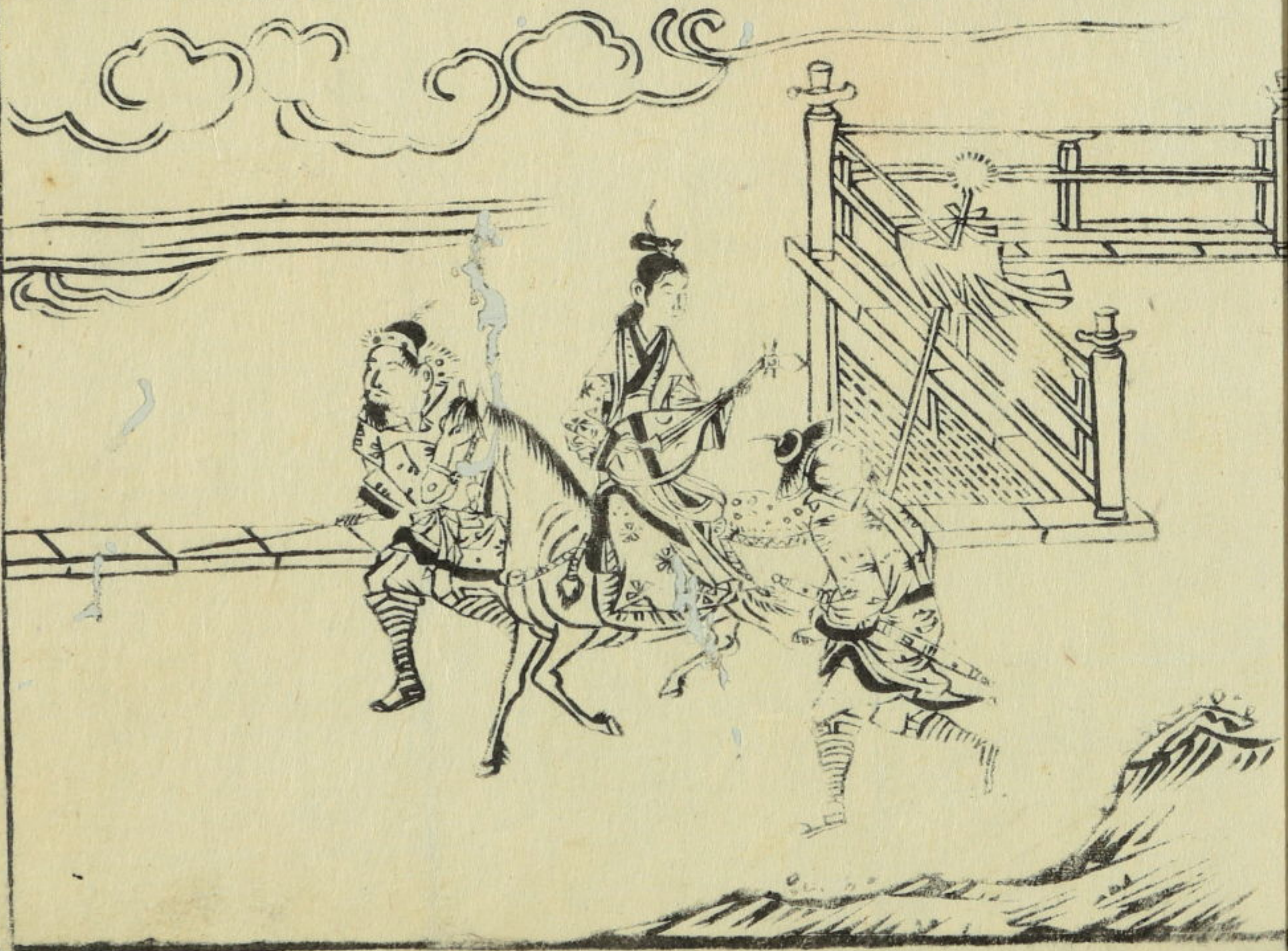


七十六 王昭君

漢の代ハ胡女の名びと宮中の美人と一人あり。漢へ  
 こわくば甲と云々。世といひわく。あひまう。うん  
 つふ。事あり。世といふ。乃て女の事あり。世といふ

と一人はつらつとべし。それとちのちく。撰ひ出さん。容  
易たるまじ。いそいで。宮女ご之れ。容白と。繪  
し。上流へり。ふより。宮女各々。毛。延。去。こ。ふ  
繪。師。今。金。泥。と。賄。志。く。か。か。う。う。つ。く  
描。せ。り。ふ。思。惑。ハ。う。か。う。ら。の。義。な。く。臥。た  
の。と。繪。師。今。金。泥。と。け。う。う。さ。ご。う。た。中  
ふ。と。思。惑。と。眉。目。の。さ。か。さ。る。あ。う。り。志  
か。ば。思。惑。と。こ。き。け。り。い。ら。れ。と。く。な。り  
見。の。う。け。三。子。才。一。乃。義。人。あり。帝。が。さ。り。あ。う。  
ゆ。く。か。ま。ま。も。編。む。け。の。ご。う。あ。れ。も。  
力。あ。く。胡。玉。へ。と。り。う。さ。る。れ。思。惑。は。け。さ。る。

ふ。家。路。色。と。赤。て  
思。情。と。述。白。居。め。が  
の。小。明。妃。の。せ。り。り。  
明。妃。は。思。惑。の。と。り。り。  
その。約。は。海。面。胡。沙。は。  
紫。風。眉。清。沙。は。臉。  
清。紅。紅。若。幸。幼。無  
特。重。如。今。都。の。書。島  
中。明。妃。の。お。の。思。惑  
於。あ。い。れ。あ。う。ふ。り。  
よ。あ。い。れ。あ。う。ふ。り。



曲つらりく佩あり。思ふごとく父母の事あり。  
 けしりくとも生ちまらざらん。されまきりき。  
 ふよもしききん心のしらけり。わたりん。野  
 くれ山られの道とがり。面（胡）沙とあきく。後  
 びた。多風吹みじ。使としくく。勝る。勝る  
 紅とくせくく。右の雲井。外万里恨ま  
 くる。神のさくみ。せさ。りくわ。地。ひ。一。か  
 ら。と。途。り。と。接。く。新。家。く。は。が。喜。へ。祝  
 や。せ。く。と。一。面。新。と。あり。し。今。を。始。め。く  
 畫。巻。乃。中。は。け。り。と。え。ん。の。ゆ。あり

七十七

卞和之璞

昔卞和楚山といふ所あり。璞をとて。みく。け。玉と  
 り。め。く。楚。乃。厲。王。小。を。以。玉。人。と。く。玉。と。琢。く。看  
 と。け。く。乞。と。相。と。し。王。人。と。く。玉。と。琢。く。始。と  
 卞和つらりたりといふ。そのと。紀。厲。王。怒。く。た。乃  
 是。と。刑。死。又。その。ち。周。の。武。王。の。時。此。璞。と。ま。つ  
 玉。人。と。く。衣。あり。や。その。王。ま。し。卞和。の。足。踏  
 刑。又。次。れ。文。王。の。と。た。卞和。其。璞。と。抱。て。楚。の。下  
 に。去。く。泣。と。三日。三。夜。泣。く。と。魚。の。こ。を。り。泣  
 その。と。孝。文。王。人。と。け。り。と。く。その。ゆ。と。と。り。し。勅  
 彼。卞和。と。じ。ろ。く。い。り。く。天下。に。刑。死。ま。の。多。く。し。子

何の子也。じがや和。こえん。我れ。事と也。心あり。比。かの室むして。主人あり。いふ。ふを。我が身に。行。く。あつ。る。ふ。り。り。と。り。つ。く。と。り。と。想。じ。と。云。又。王。と。れ。つ。ら。王。人。と。云。く。そ。撲。と。み。づ。と。ら。く。ふ。天。下。無。雙。の。羨。玉。と。な。ら。玉。と。抱。て。哭。せ。一。處。と。抱。玉。と。云。ふ。玉。車。の。あ。り。せ。た。あ。と。之。に。車。十。二。葉。と。て。く。と。く。と。く。夜。光。の。玉。と。い。こ。せ。る。あり。と。云。ふ。と。考。る。ふ。卞。和。が。故。後。の。韓。非。子。ふ。あ。り。楚。人。和。氏。と。あり。爰。よ。楚。の。厲。王。周。の。武。王。の。ら。文。王。不。撲。と。な。れ。と。決。兼。と。兼。を。韓。非。子。ふ。ハ。楚。の。厲。王。の。楚。の。字。あり。乃。ハ。周。の。武。王。

乃。周。の。字。あり。史記の世系と見る。小楚ハ熊繹王より以下。厲王と云ふあり。周の文王乃末十一代目。厲王あり。惡王に云ふ。楚ハ流る。け。周の厲王に云ふ。云ふ。卞。和。ま。く。ハ。年。代。ら。り。不。及。ぐ。と。考。る。こ。れ。な。て。も。あり。又。周の文王ハ殷乃湯王の末。紂王。と。云。ふ。あり。惡王あり。は。文。王。と。云。ふ。と。考。る。天。下。と。治。む。と。武。王。と。考。る。と。考。る。と。考。る。と。考。る。卞。和。が。母。ん。な。り。し。ハ。周の文王武王ハ何れ。武王と云ふ。云。文。王。と。の。ち。と。云。ふ。云。ハ。何。れ。楚。乃。武。王。文。王。也。楚。乃。祖。熊。繹。王。より。十。六。代。目。ハ。始。昌。と。云。ふ。あり。その次。武王あり。その武王乃次。小文王と云ふあり。



辛九

八景

漢湘夜面

石渡河平漲水痕

一葉空庭夜清黃昏

蘭枯蕙死空江秋夜

短笛誰吹

楚宮魂

水

舟

酒

秋

月

洞庭秋月  
西平湖月滿正

一河柳絮

淡中看

岳海橋上種松竹

竹

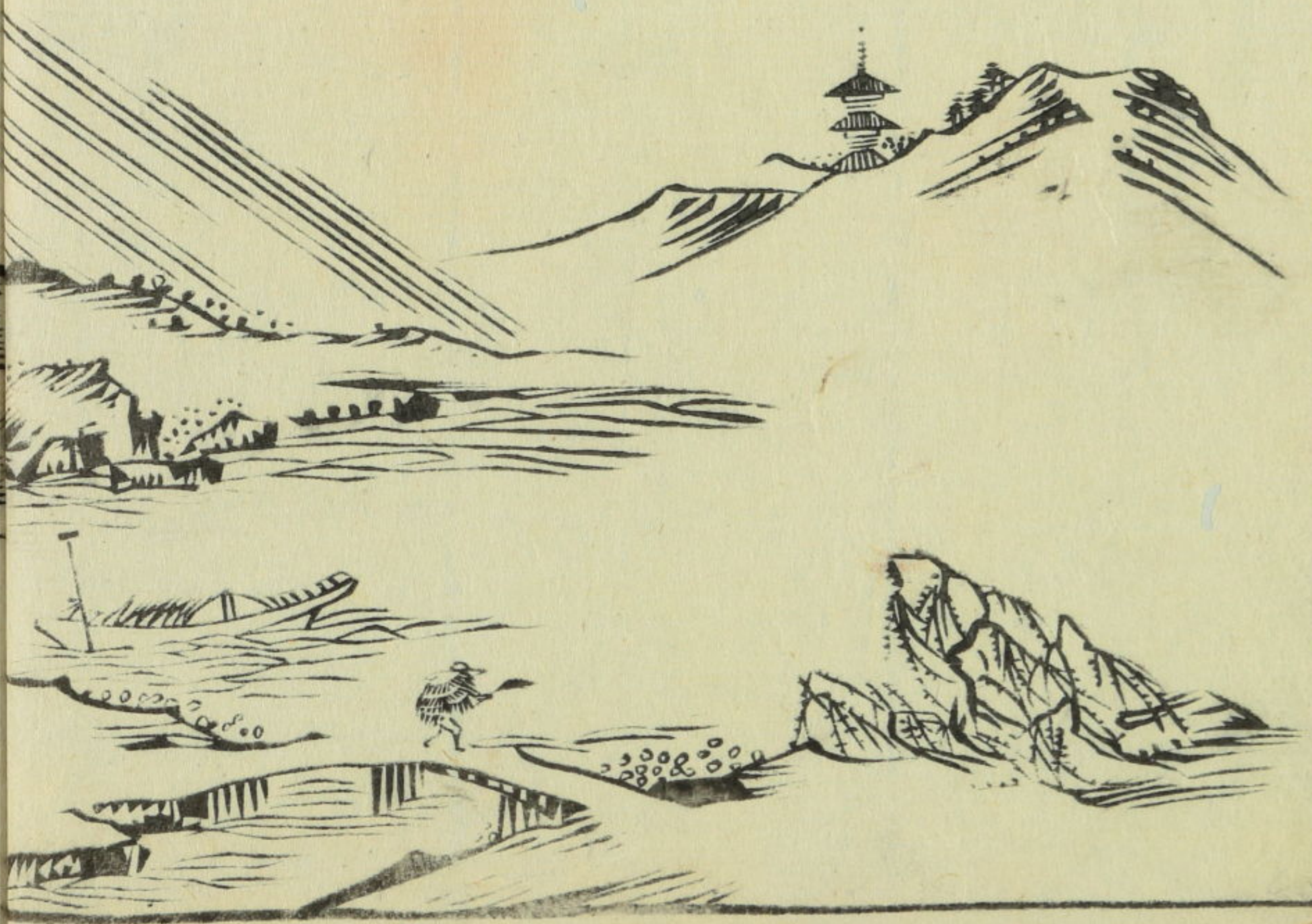
竹

綠水

水

月

月



煙寺晚鐘

鐘送斜陽出暮山

遥知煙寺隔前湾

山翁真怪

暇來晚

欲待峯一頭

月上還

そののふりかきりつふ

後のまきり

わいそくが

遠浦停帆

無邊刹境入毫端

帆落秋江隱暮嵐

残照津取漁火動

老翁閑自鏡江南

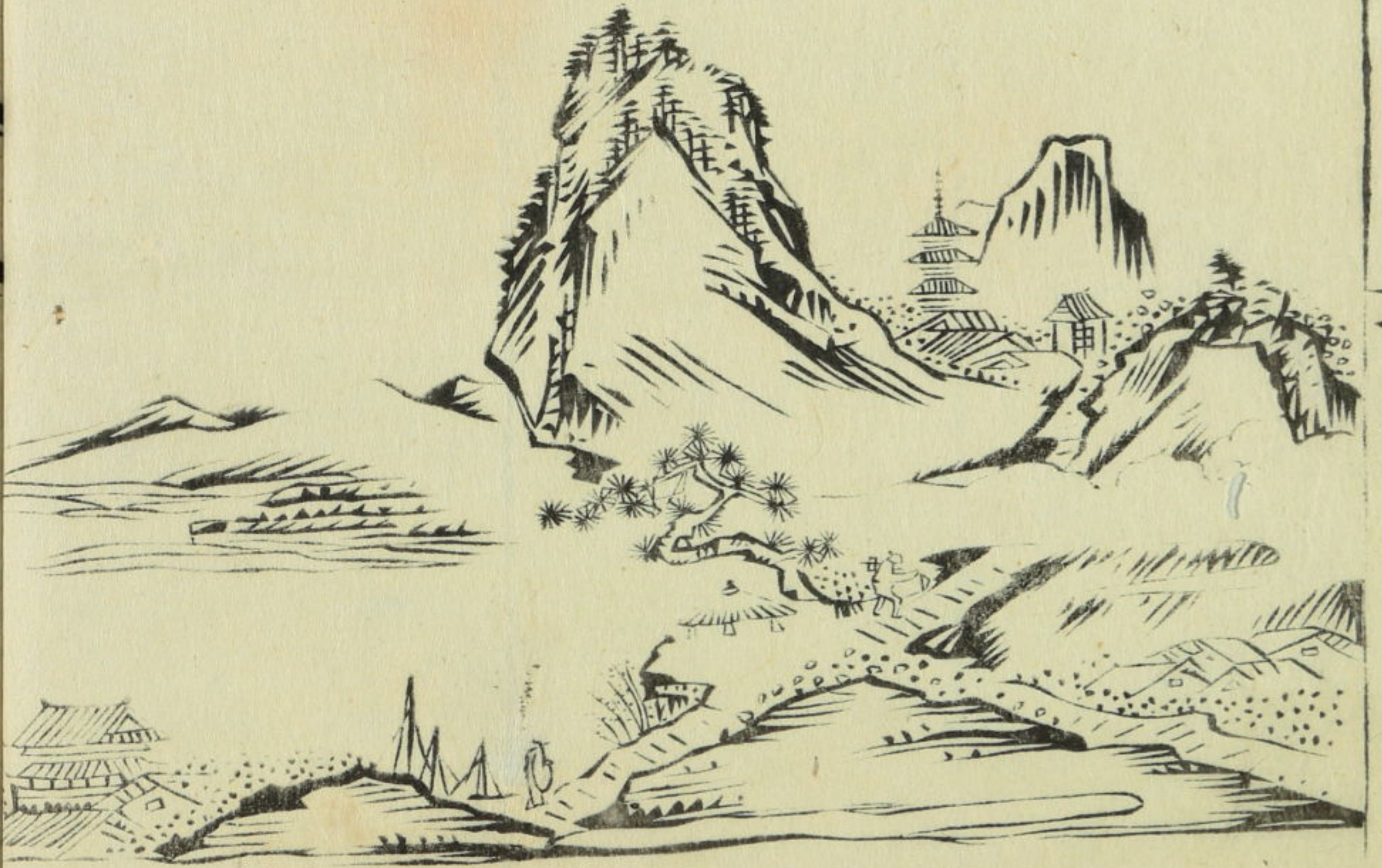
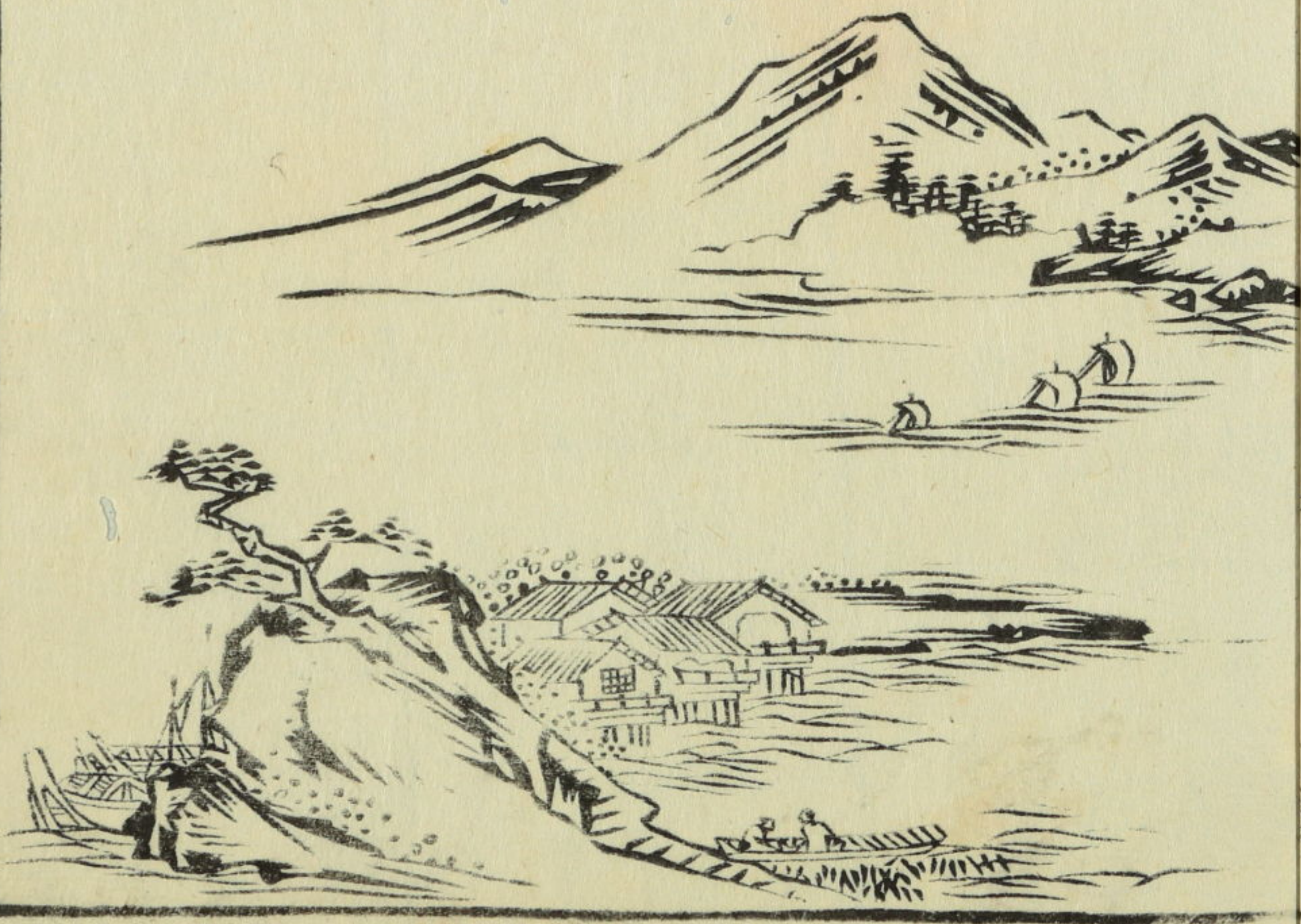
風心ふき入るきなき

あひくみく

ほりさぬさねり

のつれ

うが人



萬葉集卷四

四方晴風

雨拖雪柳

欽長收

海濱市橋

海濱市橋

海濱市橋

海濱市橋

海濱市橋

海濱市橋

海濱市橋

江天暮高

万里江下

花若瀨平林

馬蹄滑

文況盛園

情不棄

道乃葉

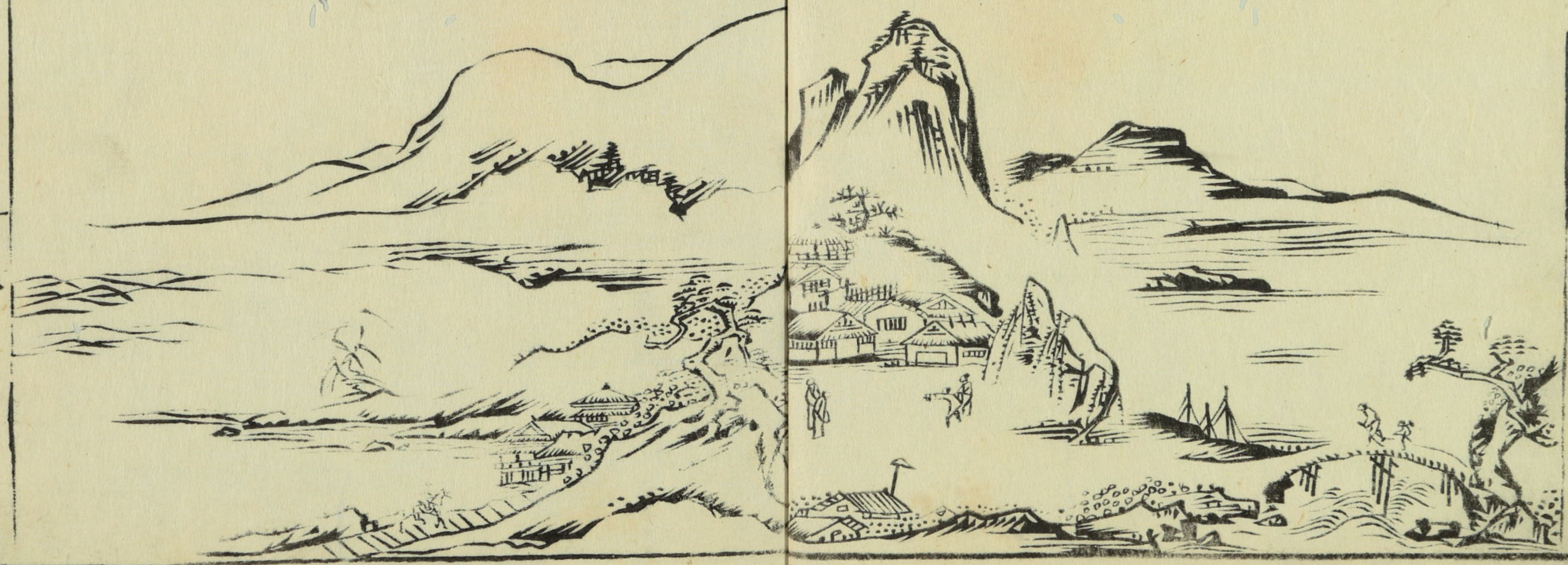
江下

江下

江下

江下

會本卷四



十五



漁村夕照

一江晴日

滿砂汀

入りの夜う 賣典魚來

酒半醒

蓑笠未乾

御板静

喜聲横笛

数家暮

平砂落鴈

點々隨群 舊處栖

蓼花蘆葉暗長堤

天寒水冷難成宿

猶自依々恣別離

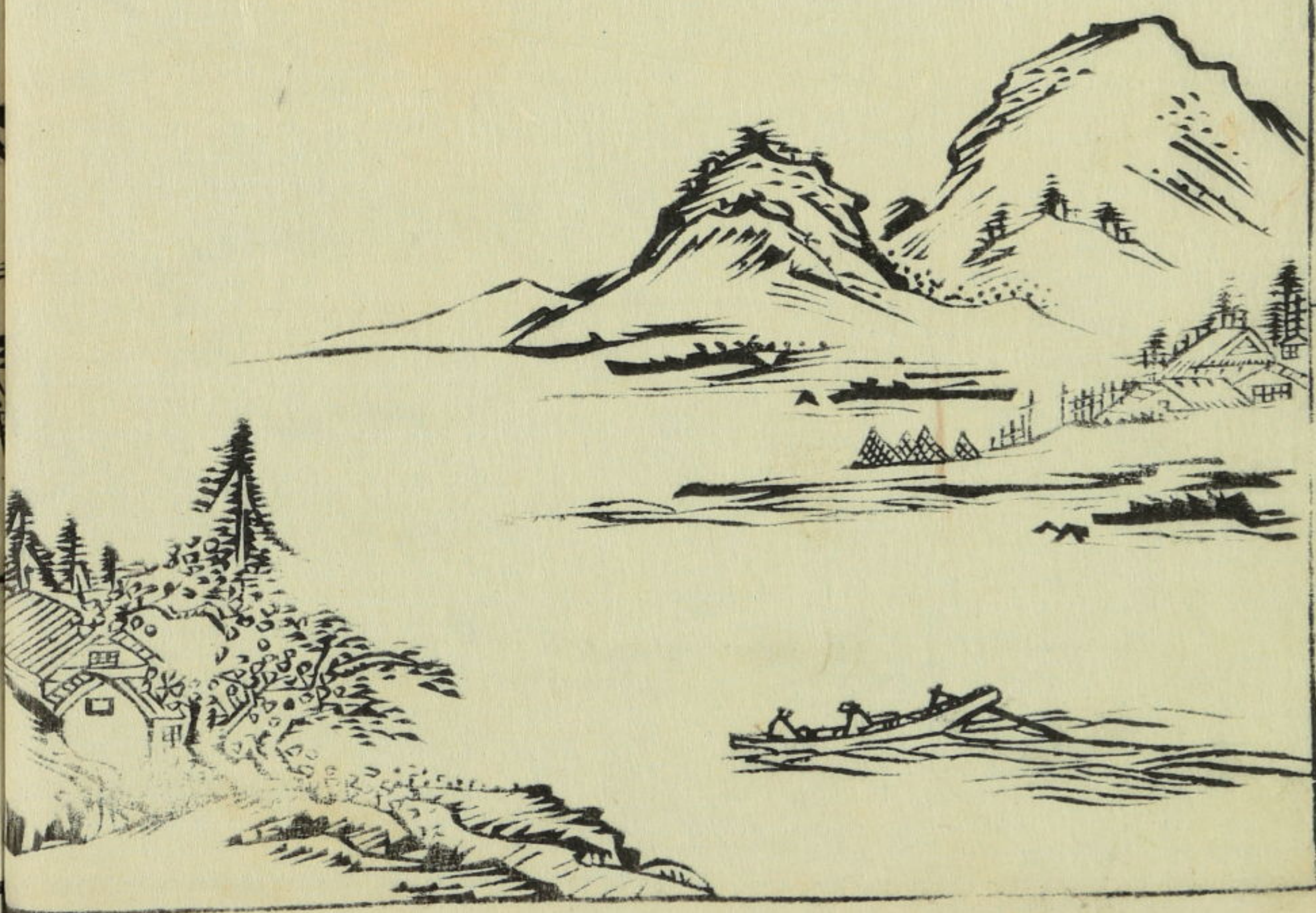
平砂落鴈

舊處栖

天寒水冷難成宿

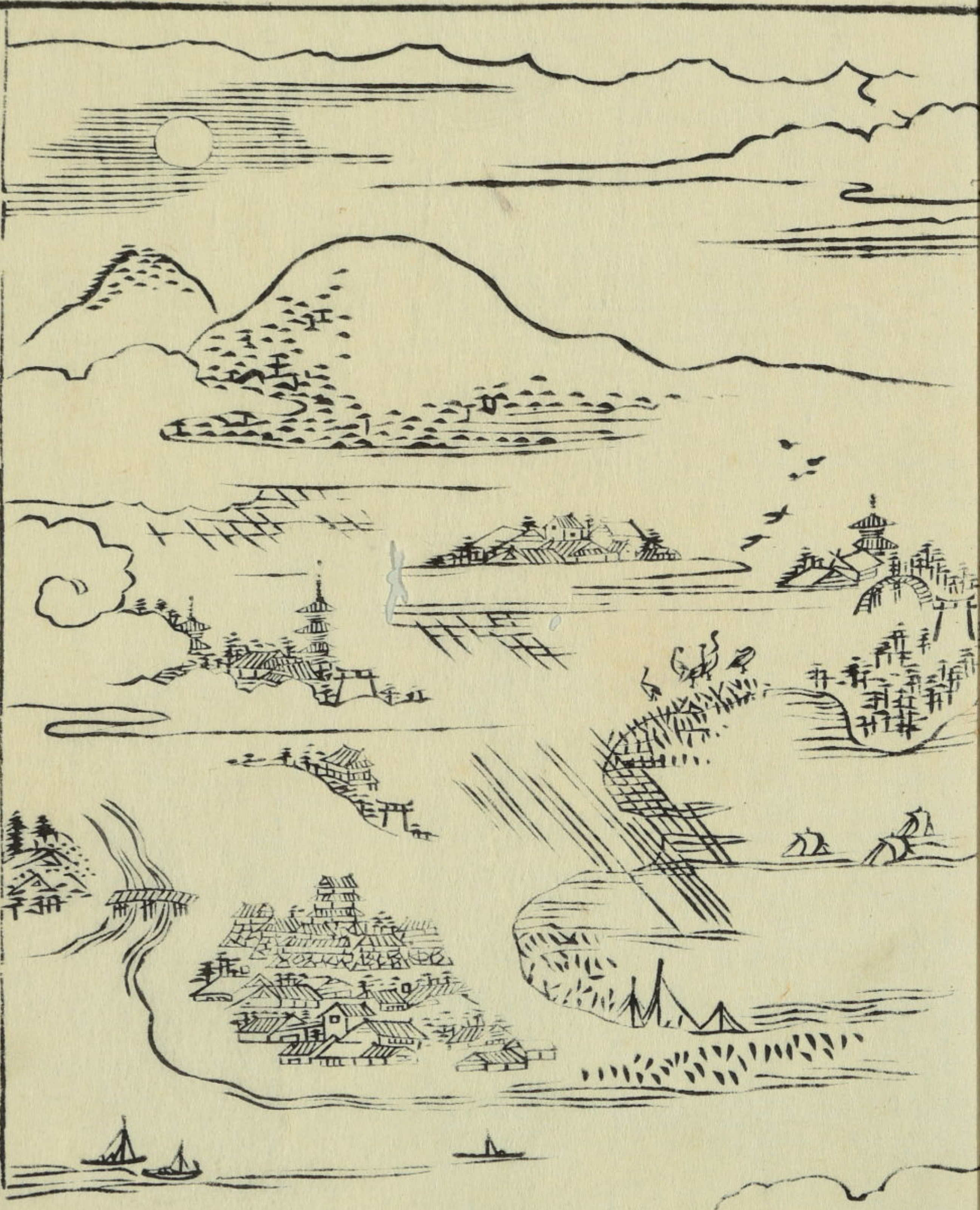
猶自依々恣別離

會本卷四



右乃竹と玉洞の他他絵と玉洞の定らけり  
 玉洞の約其一面を戻り書は但今一面世の  
 八系あり今又我の遊に遊の八系あり今固  
 り難波の事れ方とく書は

田舎の事  
 難波の月  
 天王寺の  
 任官降物  
 平野の  
 長柄の  
 鳥居の  
 舟の  
 塔の  
 橋の  
 山々の  
 雲々の  
 水々の  
 舟々の  
 鳥々の  
 魚々の  
 虫々の  
 花々の  
 果々の  
 菜々の  
 木々の  
 石々の  
 土々の  
 砂々の  
 水々の



八十

松月

妻の月夜まゝのいなき乃のあり

妻の月夜まゝのいなき乃のあり

八十

那古海

那古海八拾の玉位を乃のありは子月乃入所と書

あつ海かすしれらりあつしと入りとは小仲は白飯

半二

佐野後

このわたりは夫和乃玉の名所ありといひ冷の物もあれ  
移るは月をさるへ一ふあいの神をいしは河つとをを  
定まぬ神あり  
路もあつ神を拂ふ事あり佐野後とれ乃の夕暮



八十

福鹿野

或福祿野

福鹿野八天南星といふ早の草。麻よの。又此を以て  
福鹿野といふとらり月事あり



八十四  
念方透岩  
多縁母の指門よりしとに母虎の生れと教へ  
つと父孝の年虎と備しにかつく虎に教へ

新しぬ多縁七母よあり  
時親の歌虎とゆくひが  
かこふ若じとく虎りい  
くふひつここれなん家父と  
そりし虎あるべしとぞひ  
矢とらくおつづひつらひい  
くこるらその矢ぬおにと  
世のく石よさらあつと  
なんばんとあうらせこ  
虎こころるよつと  
そしお  
とゆらつと



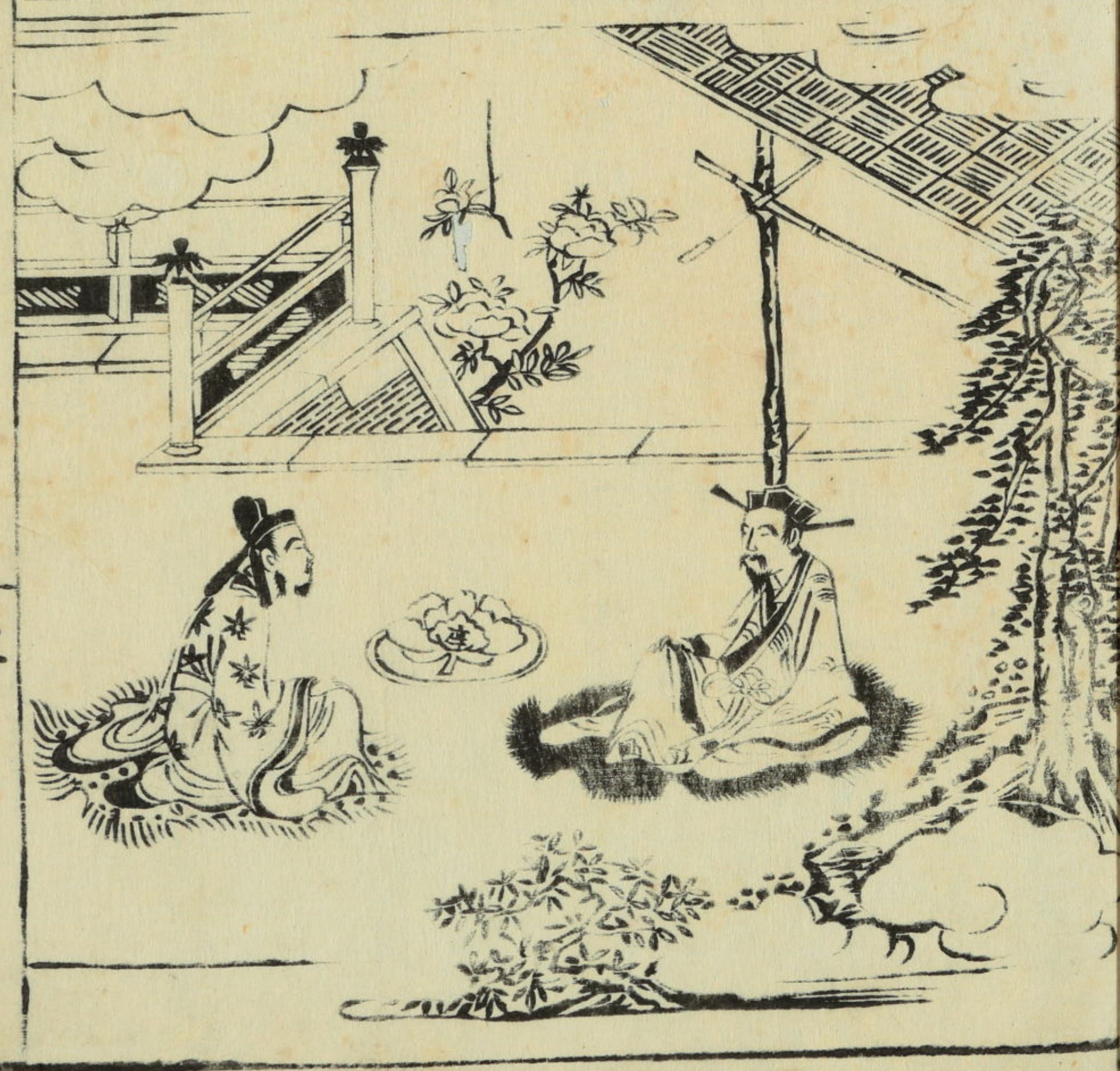
青史記とらふ小李廣かく痛むる中りる  
 月くくはる虎ありとこきと射く石中鏃と没  
 し。徐廣かくいづく没ね小地。李廣こととらふ小  
 石あり。とらふ復更よ射小終。没つらむとそ  
 廣が居所の郡。虎ありときいづく。常  
 射。右。小。平。は。居。よ。や。う。ん。て。虎。と。射。虎。騰。く  
 廣。の。傷。亦。竟。り。射。殺。を。し。る。り。あ。り。は。小。李。廣。の。子。也。  
 李廣。三。つ。つ。射。ら。あ。り。小。妻。女。及。子。は。  
 射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。  
 わ。ら。ん。た。文。を。く。れ。し。し。射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。射。ら。あ。り。

八十五 昌黎韓相

昌黎、即韓退之のともあり。晚唐もむく文文ありし  
 人あり。昌黎の字子韓。相といふそのあり。昌黎の文字  
 も。昌黎の字。海也。と。た。つ。ら。う。し。昌。道。士。の。稱。と。の  
 めり。昌黎あり。と。此。韓。相。ふ。つ。ひ。は。ら。ひ。乃。仁。義。乃。介  
 の。ら。ま。ひ。と。ら。う。し。ま。ら。う。ら。ひ。は。何。が。と。り。ふ。能。く  
 じ。く。教。訓。と。も。と。ら。う。ら。ひ。韓。相。知。く。ら。く。意。中  
 に。天。地。と。は。造。化。の。工。と。う。り。入。述。あり。し。昌黎  
 が。い。り。く。今。と。れ。ら。造。化。の。工。と。あ。り。人。や。韓。相。也。  
 事。小。田。ふ。ら。ん。と。前。お。ら。ひ。ら。ら。梅。子の。意。と。何。の。か  
 い。ま。あ。ら。の。け。ら。と。あ。れ。ど。松。玉。の。牡丹。の。祀。

一枝のりうとせしとらん遊人の花の中（ななか）に金字めく一松  
 の句あり 雲横秦筑家何立 雲擁藍園馬不  
 前 昌黎不思議のひのひのひとす せしつ  
 うせり 昆山人韓偓が仙術天下を志たりとのら  
 昌黎佛法とかりん 兜王の教とけしむじるまはし  
 奏し されし時の素暗志と 昌黎と潮河（うらさ  
 せりの昌黎山野と跋渉する所も冬の変なを  
 雪もいさまにあり 白やなく 暑もたし 秋はれ  
 たりと まいひてお歌成ふ びくろわらわ韓  
 偓とつともかくまはり 昌黎より馬より従て曰  
 先年牡丹花の中 にはさるる句 今もなる 報は

ふらく合下  
 とて 芝の二  
 句よ句と是て  
 八句の詩とは  
 ありく 楽也  
 よふ 進たると  
 あり 八句の詩  
 行家のあり  
 徳のあり 今  
 こゝよ 略め





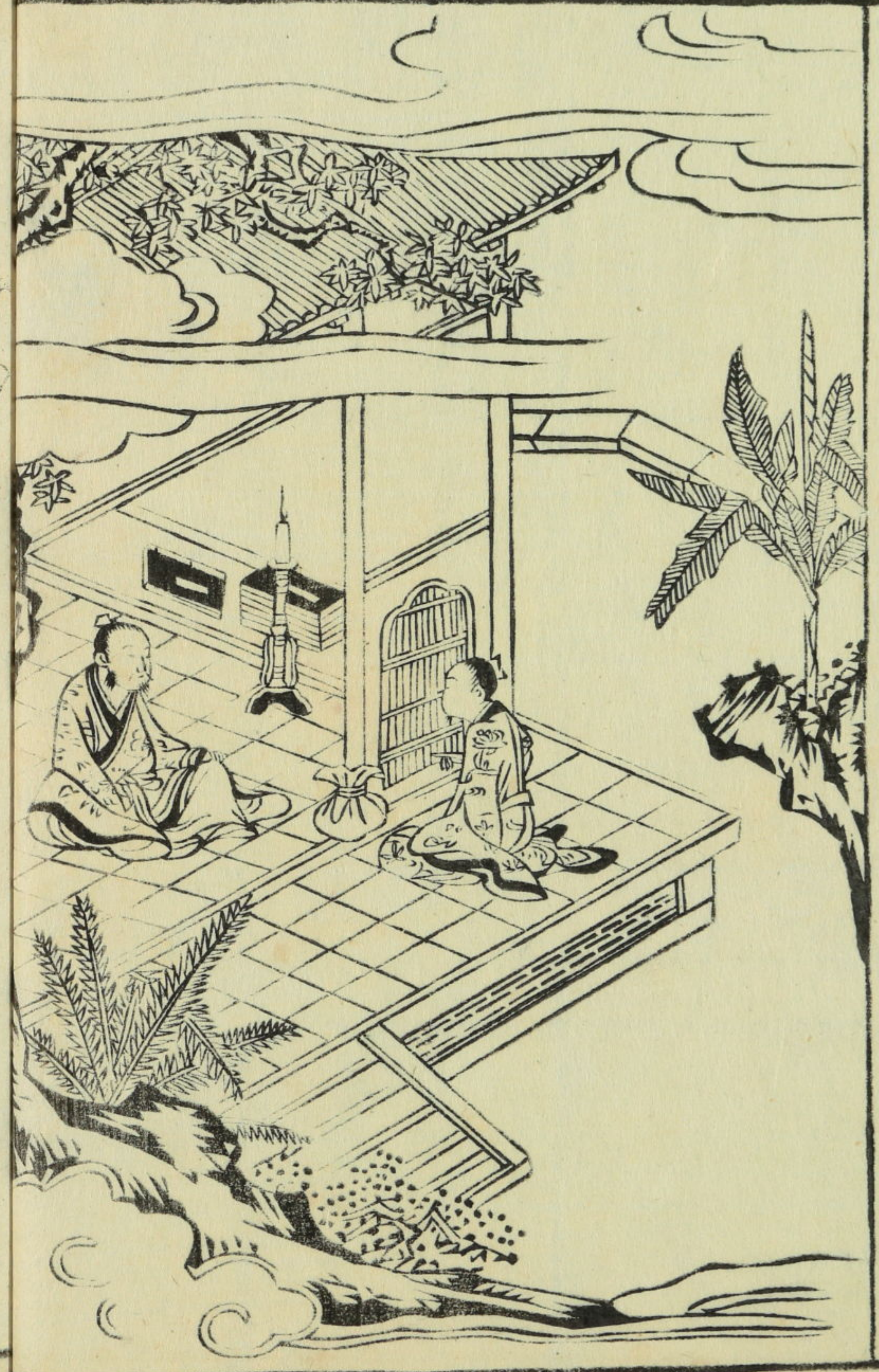


八十七 四知

楊震とつりし人、後漢乃代の人あり。判別とふ  
 下の判吏とあり。昌邑とふ宿にとあり。後  
 昌邑乃令小王密とふものあり。事りと楊震と  
 見之。まゝ。取み。む。く。ひ。そ。う。小。事。り。金。子。十。斤。と  
 懐より出。し。楊震ふ。け。ふ。楊震が。い。つ。く。ま。れ。ハ  
 ぬ。と。ま。せ。り。ぬ。ハ。ま。か。ん。乃。い。さ。ま。こ。う。さ。と。ま。く。さ。り  
 り。い。う。ん。と。ま。く。う。け。ど。王。密。が。い。つ。く。目。を。言。り  
 介。り。又。ま。く。ま。の。あ。い。こ。と。と。れ。い。ハ。楊  
 震。あ。ま。く。い。つ。く。天。知。神。知。我。知。子。知。と。し。後  
 り。こ。と。と。う。ら。び。は。名。言。と。あり。く。四。知。の



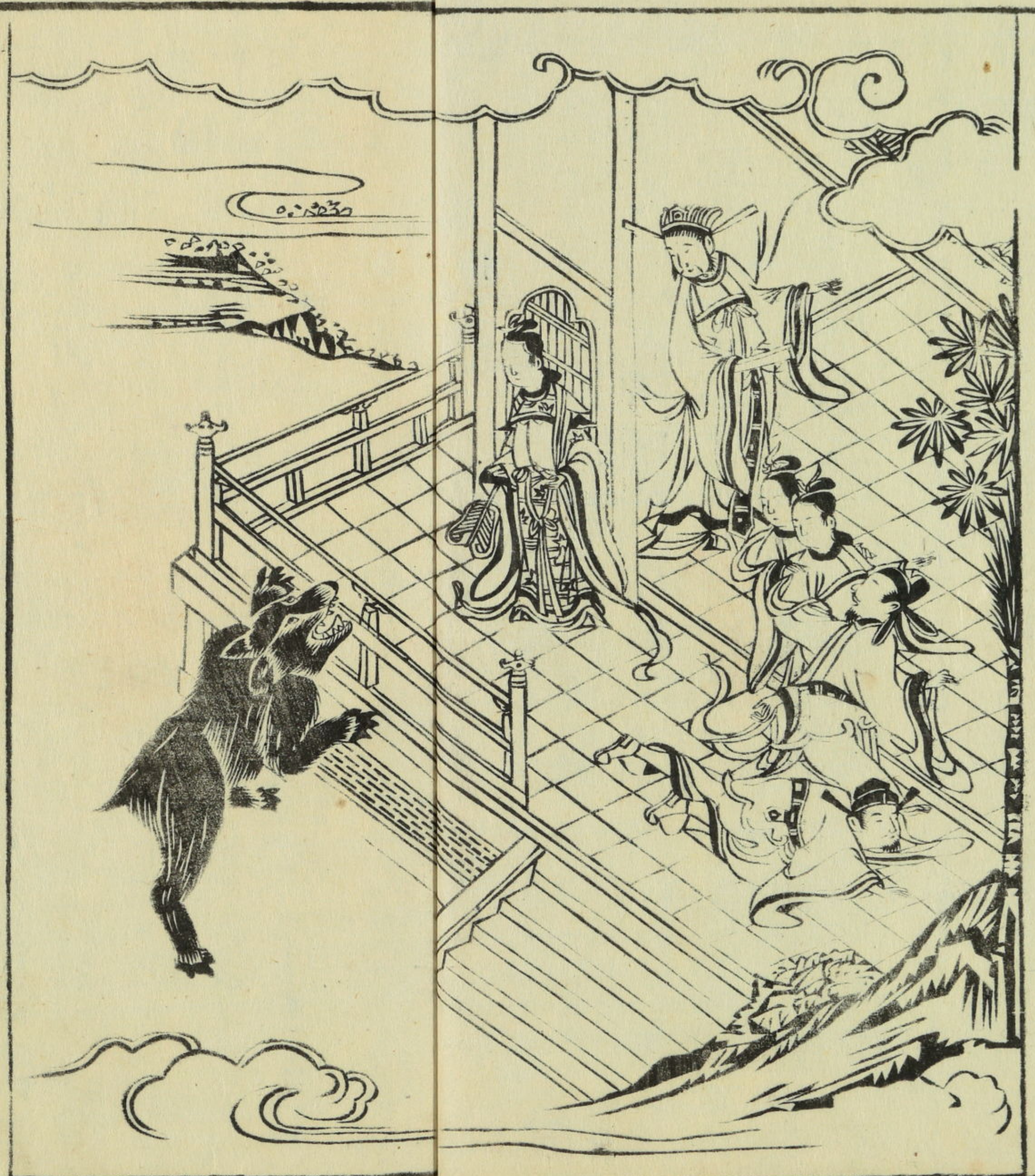
畏くそり、畏ハ怖るがくあり



八十八 馮媛

前漢元帝の馮昭儀ハたけ軍奉世がじとあり。  
元帝の寵名傳昭儀とけのよけありて寵をせ  
らとけりわると元帝虎園よみゆきありて  
くごとのとていこうじけ宮ありて座をとり  
そのときひひ乃熊いらく園とありて樹下と  
奉殿へのけんとんたそ乃そ人傳昭儀とて  
みおとらきつて北らきりる小馮昭儀とて  
とんで熊よありる元帝曰く人ハみをあげ  
さりしよとんでまんのゆにとんで熊よありて  
やふ照儀とていりて猛獸ハ人とけく怒ん

やじと義之と御座よ集らん事と云ひかど  
 熊よいづらと曰え帝感し泣ひゆりく  
 わりしと



八十九 楊中仙

ひう巴印といふあれ座よ。ちあれ楊乃まわり。おね  
 のぼ楊実とこもぐえぬ収々々ふその中おこ  
 るこは斗色入ぬる。蓋がどなり楊乃あり。後  
 見どしありとく。おしとさる。或時人と本よ

けうの乃橋とらるせらるふ守さこくはけの橋  
 乃とことと割用さくく丸るふふ思後やこら  
 け橋の中ふおのく二隻りり。鬚と眉も。今か  
 皤然とさう。肌許紅明とわくわくさうあり。氣  
 ね對して象標。方一尺わまり。後髪ふて。身表とや  
 くらうあり。たよ賭とありさふまこた橋中の樂  
 高山おおとこと。但根と深くし。蒂と圓とらるやと  
 ゆととらり。さハ橋中。小唇とたの。じまハ例と  
 ゆこれと橋と。ゆととらり。こせんとこあ。はと  
 ぬんあり。一の隻のいつ。僕とに。飢虚。沙眼。肺と  
 ぶよのと。念んとく。社の中より。二つのなれ根と

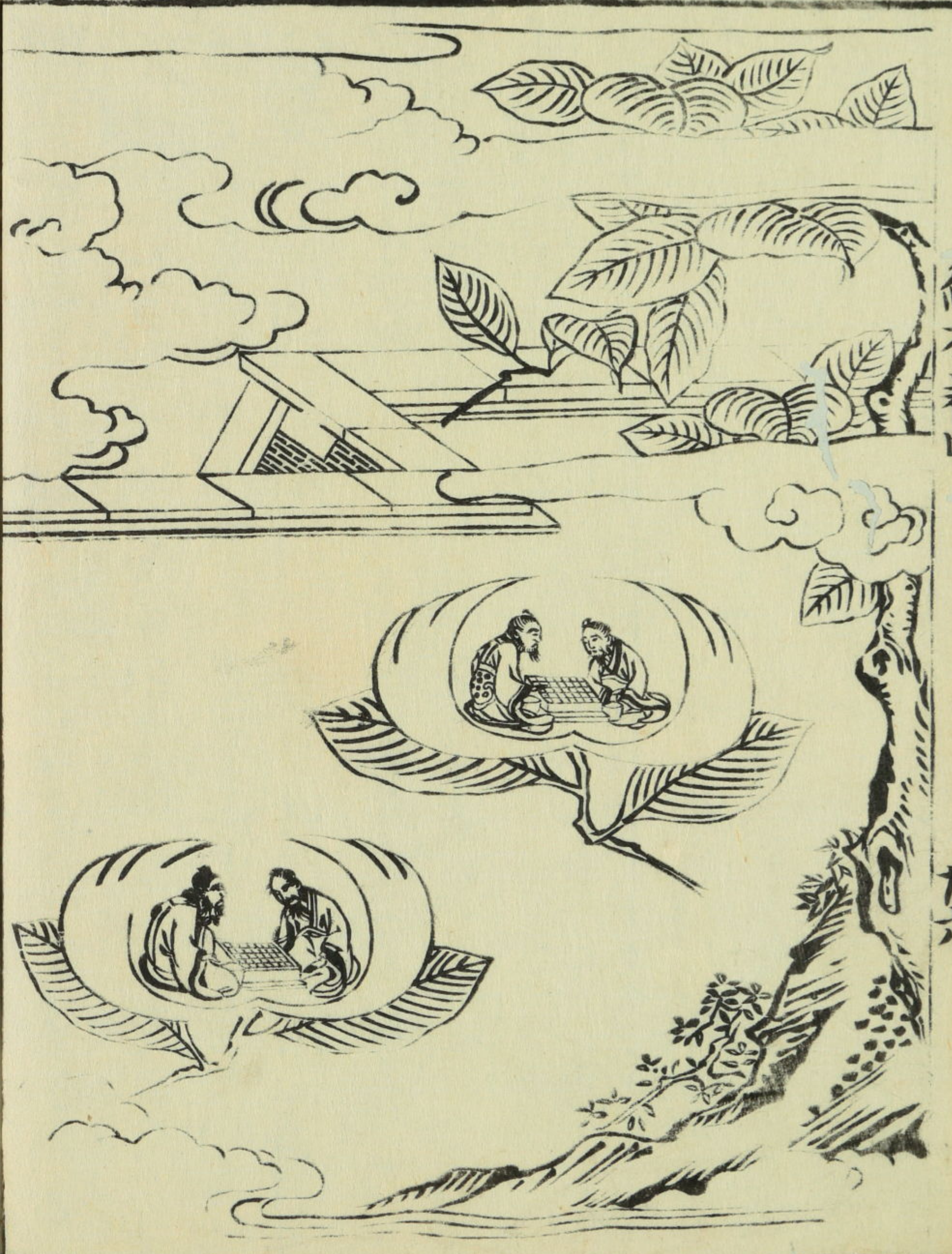
抽おと。そのま。い。い。さ。あ。ら。は。あ。一。す。り。と。る。と。く  
 宛持て。然乃。こ。と。さ。る。れ。と。割。り。念。と。念。と  
 乾して。は。ら。く。水。と。お。い。は。と。く。さ。う。い。ま。ま  
 の。暈。あ。さ。う。こ。う。ら。た。ら。ま。ら。け。く。乾。と。さ。る。  
 ぼんやよ。い。乾。は。さ。う。け。は。足。下。よ。ま。ま。乾。り。と。酒  
 更。り。風。毎。晦。明。と。所。を。と。去。ひ。ら。う。と。あり。  
 け。橋。中。の。乃。は。人。の。隻。ハ。ま。を。ら。ら

高山のほほあり

着山のほほあり

まよふこと

こら



九十

孔子十哲

孔子大聖人の御字と仲尼とを申すものなり。  
 漢文ハ叔梁紇の母ハ叔徽とを申すなり。叔梁紇の孫  
 として尼丘山に於て生れたり。生れしを尼丘  
 丘山の尼此字と作さざり。仲尼と字を給ふ。然るに  
 魯國の春秋の文王の末二十五年庚戌の歲十一月庚子  
 子に於て生れしもの生れし由り、魯の昌字の  
 阪邑に於て生れし及卒の年月記す。魯の記す由り  
 孔子のけりし由り、魯の記す由り、魯の記す由り、魯の記す由り。

魯本義曰

廿二

安し行ず人あれ長治ふまじくひ。三皇又帝  
 三王の道と演仁義礼智の躬と廣め治ひし  
 三皇と伏羲神農黃帝五帝とハ少昊。顓頊。帝  
 嚳。堯。舜。三王とハ夏の禹王。殷の湯王。周の文王。武王  
 して世に天乃命せ以聖徳めをまかり孔子ハ集め  
 て大成せしと云く治するを成せり。衰世の  
 治ひしは魯の爲れ。齊ハ麒麟出たれども虞これと  
 殺せり。孔子我と知し莫くんと道の衰とあげき  
 治ふもあつら退て春秋と治り治ひしもの  
 周の文王二十八代。敬王の二十三年。魯玉の移る衰と  
 十六年。壬戌は月己丑孔子七十二歳あり卒治ひ

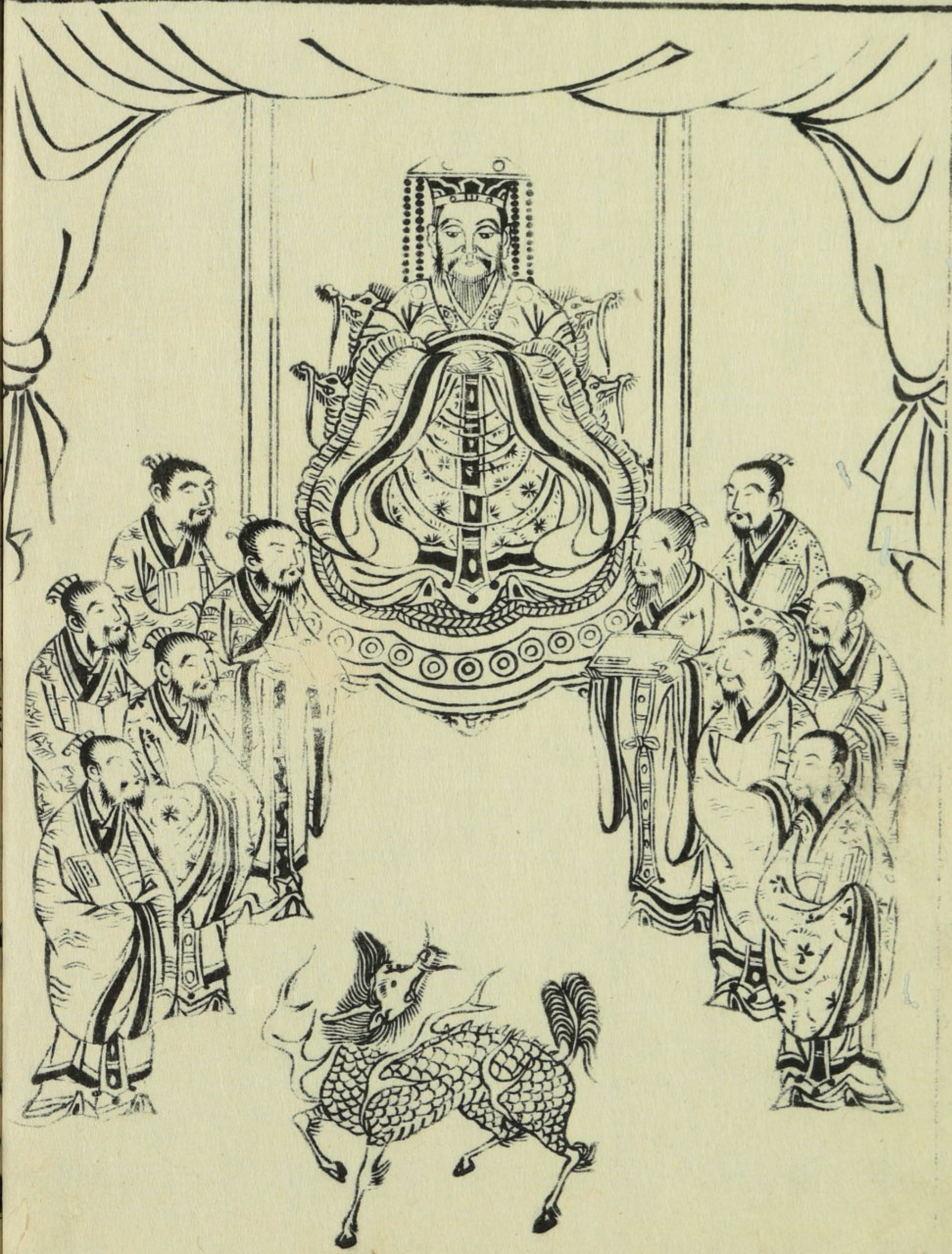
魯の燧の細とよ墓々つ。孔子は悲哀哭踊と  
 心喪と服とつと三年。孔子負家のとよ盡して  
 凡て六年孔子の存日のとく治すを更なるり  
 也。天地開元の來來孔子乃て子あり  
 人ハあり。聖たりり天理とあり人道と教  
 父子夫婦兄弟朋友の六倫とあり。治世の  
 治と治と。則て天下と治め治ふゆへ民生禽  
 獸と教す王道塗炭は落りり。孔子聖  
 人の徳化はく。法人ありん。志く。恩と  
 誰と。尊敬せ。孔子儒道と云く。賜  
 恩化とあり。孔子儒道と云く。賜

仁義礼智信と云く固よりありとて眉をひそめく  
<sub>あつ</sub>傷者として人々を教へ呵責するのうとて  
白眼ふるる事とぞをわたりもる。其道とぞの者  
と。文字よのころせく道学の信あり。たの文字と  
いふハ二皇五帝三王の書と備し己が知行とわく  
<sub>あ</sub>くは道学のの中にありき。末の学者ハ文と  
書待をわり花美とぬ。辯舌と是くし。言あり  
<sub>あ</sub>くは是く名れ國汚しるこのこ多かりき。  
かく仁徳のゆるく人我の情なくとく。利よんせ  
名く。はありあは。福の者るわく。ありはり  
さるもをあり。詩文ハ人々としてけ。志とのありと

とくあるとく。徳とやあひ心とく。えんとあは。は。い  
てこそと捨つる本と務めて末よ走ると。き。か。い。さ  
ら。ど。て。異端佛はとのと。情。り。る。の。弟。ハ。名。大。弁  
利走乃人けく。竹馬の童よ笑つた。か。ん。ど。ん  
ひろく。軽。ゆる。う。る。あ。ふ。う。う。う。や。ゆ。り。怒。  
<sub>あ</sub>く。これと。ま。の。讀。書。乃。際。あ。く。て。末。る。と。觀  
<sub>あ</sub>く。と。も。あ。聖。人。と。く。一。紙。を。う。り。に。聖。人。ハ。う。れ  
人道の担ふれど。いれと。や。み。き。し。れ。の。忠。孝。と  
<sub>あ</sub>く。泥。万。里。乃。ら。び。ひ。あ。う。て。し。あ。ま。な。あ。く。と。い。の。子  
く。ろ。う。く。し。ま。い。ん。ん。と。と。緘。て。お。書。と。送。れ

一、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 二、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 三、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 四、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 五、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 六、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 七、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 八、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 九、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 十、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。

一、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 二、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 三、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 四、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 五、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 六、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 七、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 八、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 九、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。  
 十、又十哲といはれ孔子の弟子三千人あり。



孫畔

九十一  
 周の文王の時作  
 りしとある帝初一登  
 しが虞芮といふふ  
 とありしは田とあ  
 らふふの何れと其  
 體ときけむ田れ  
 場の時れ一方  
 らうざんしをさ  
 へとるがしとあふ  
 ことよ後りてくれ





ゆい新似よゆくよあはげ理と見雪国の甲一三と化  
てそれより初よゆくを飼うさうとすま

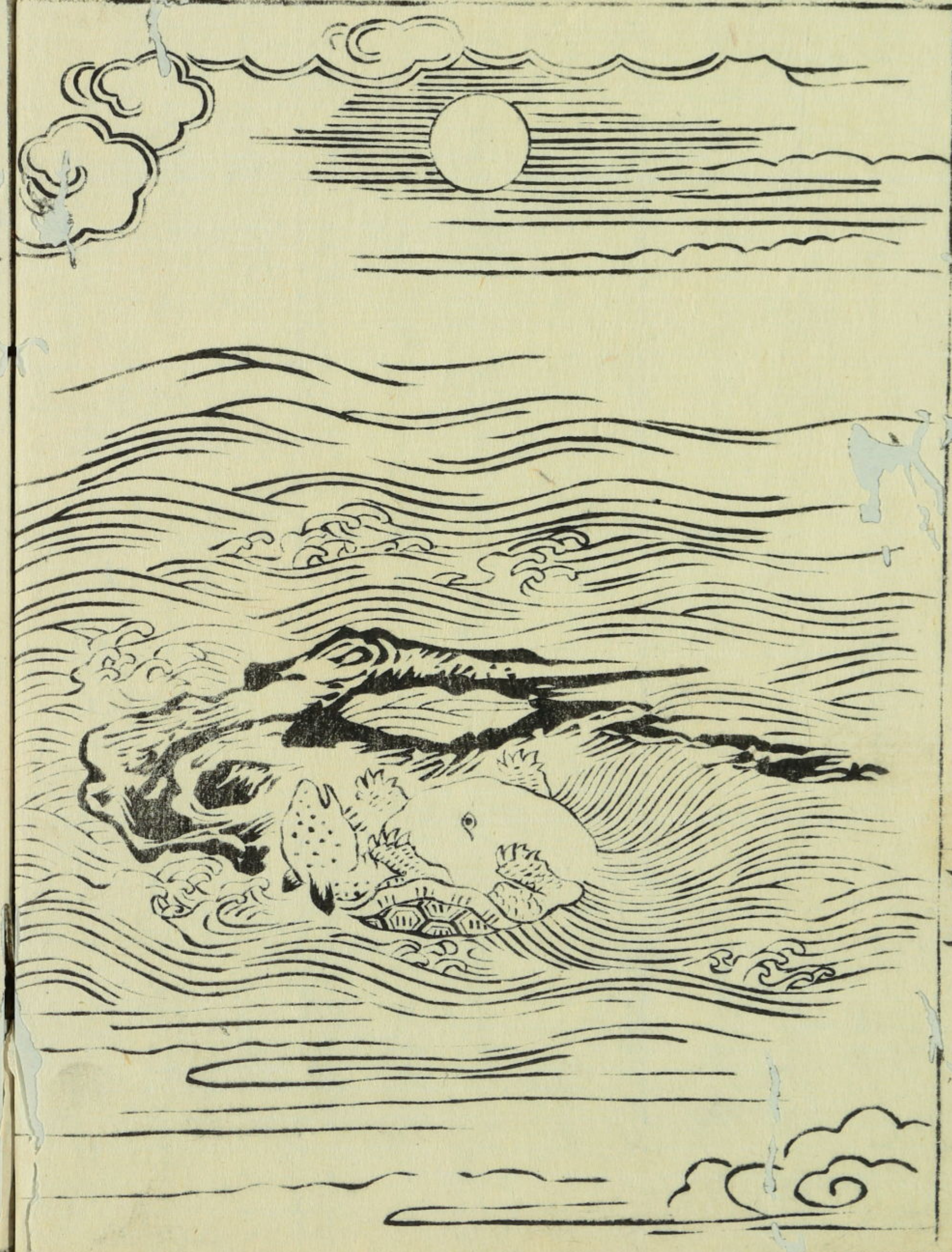
九十二 一 眼之龜

盲亀の浮木 倭皇云華のこまと八は終よんはあり  
て云とに何る。是は華經に現相あり。弘法乃令鑽  
集あを仙教り遇て。盲亀の浮木よ何くさうか  
を叩くしとあり。海の底よ。腹の下よ。月のあつ。龜あり。  
は龜。二子年よ。一夜。海へ。浮らる。小後の下よ。月あり  
ゆ。月のお光と。見ること。所さつと。着るがれ。身つ。浮木よ  
あひく。そのうくよ。より。甲と。やと。多に。は。浮木よ。表  
裏へ。わけら。穴あり。と。か。の。穴へ。龜。後。の下。の。月

り。蛇。と。し。あ。つ。つ。ろ。と。子。風。志。事。あ。と。と。と。と。と。  
浮木よ。吹。く。一。と。う。と。龜。さ。う。と。海。よ。浮。木。は。た。た。と。よ。  
あり。し。時。浮。木。乃。元。より。日。光。と。見。つ。り。さ。う。と。と。と。  
三子年よ。海。は。お。と。い。海。く。浮。木。よ。あ。ひ。こ。も。ぬ。こ。  
け。つ。し。浮。木。よ。あ。ひ。と。と。元。の。け。つ。木。小。あ。つ。と。と。を。  
い。と。と。ん。元。の。け。つ。木。よ。あ。ひ。と。と。も。月。と。元。よ。あ。つ。  
は。元。と。ん。日。の。光。と。と。見。つ。と。と。から。甲。と。と。と。と。元。  
よ。月。と。あ。つ。と。海。ら。と。と。風。あ。つ。と。再。つ。て。浮。木。と。  
く。海。は。さ。ず。ん。ど。元。と。と。と。と。あり。海。に。い。り。ん。や。三。  
子。年。よ。や。く。と。交。あ。つ。と。と。あ。れ。く。是。ち。り。し。ら。月。  
又。公。初。か。ど。海。は。さ。う。と。と。元。け。つ。浮。木。よ。より。風。吹。起。

ことごとく日西見らるるし何れもくは生歌  
 の心ゆく煩悩のうらみやむごさねくは教り  
 値遇まゝに道まゝさしとわかれしうゝ又うん  
 けしむふらるる八翻はれを瑞意とすともあり  
 般泥洹經ふいつく圃字控のうらみよふき樹王の  
 優曇云種ともうぐさありと記ありし金花開  
 せんせよすまのら佛ありし優曇云種はすまのら  
 いんげの末ありし施設講のころは瞻辺と繞  
 小輪王の路ありし廣さ一跡法明り種まありき  
 時ハ海水の上ありし路やわかれくはるるのほ  
 り輪王せよを現わして大海の城し一跡法明

ありふらるる種まの路まゝとすまのらも現せり  
 今めとまき家の室をて莊嚴を旃檀香水と  
 そのくは濡さ木輪を王御諸は巡り幸あつと  
 経兵とたよし路り遊び給ふともよし華方よ  
 せび新よ鳥曇々所舞とよ亦文句よつと  
 優曇華ハ此よ八聖瑞とよふこよ年よて現  
 じり現とらるるまきハ金輪王も同路といつて金輪王  
 の先兆あり標伽經の疏ようんげ世なるの中よ  
 おわくくもろまあり中よは依よし樹直子條り  
 匠の菓とあつと大さ控のうらみよそれ香養りり  
 ると花あり故とて去来よよん現者ありとあり



九十二

四賢詞

元ハ策亮明作なり。即侍小菰子曾栽数株柗林君  
 処菱一枝委楽天李白無貴愛咲指西湖當酒盃  
 柳とてつゝて家のまわり門に栽らやうとせらるる  
 東坡あり。柳とておもしろくハ林君あり。盃と側よと次  
 海とておもしろくハ白をて李白とてあるべし

九十四

山谷

山谷此侍白く。江南野あり松林於天中有白鴉閑  
 似我とて早急なる者れまのうみ終に紙鴉  
 乃に得しなり。此ま子より由と得る人あり。頃

山岩倚石見竹  
衝雨向方載道中得道  
遙觀遂戲題

道遙近道邊  
憩息

慰憊憊  
暗暉時晦明

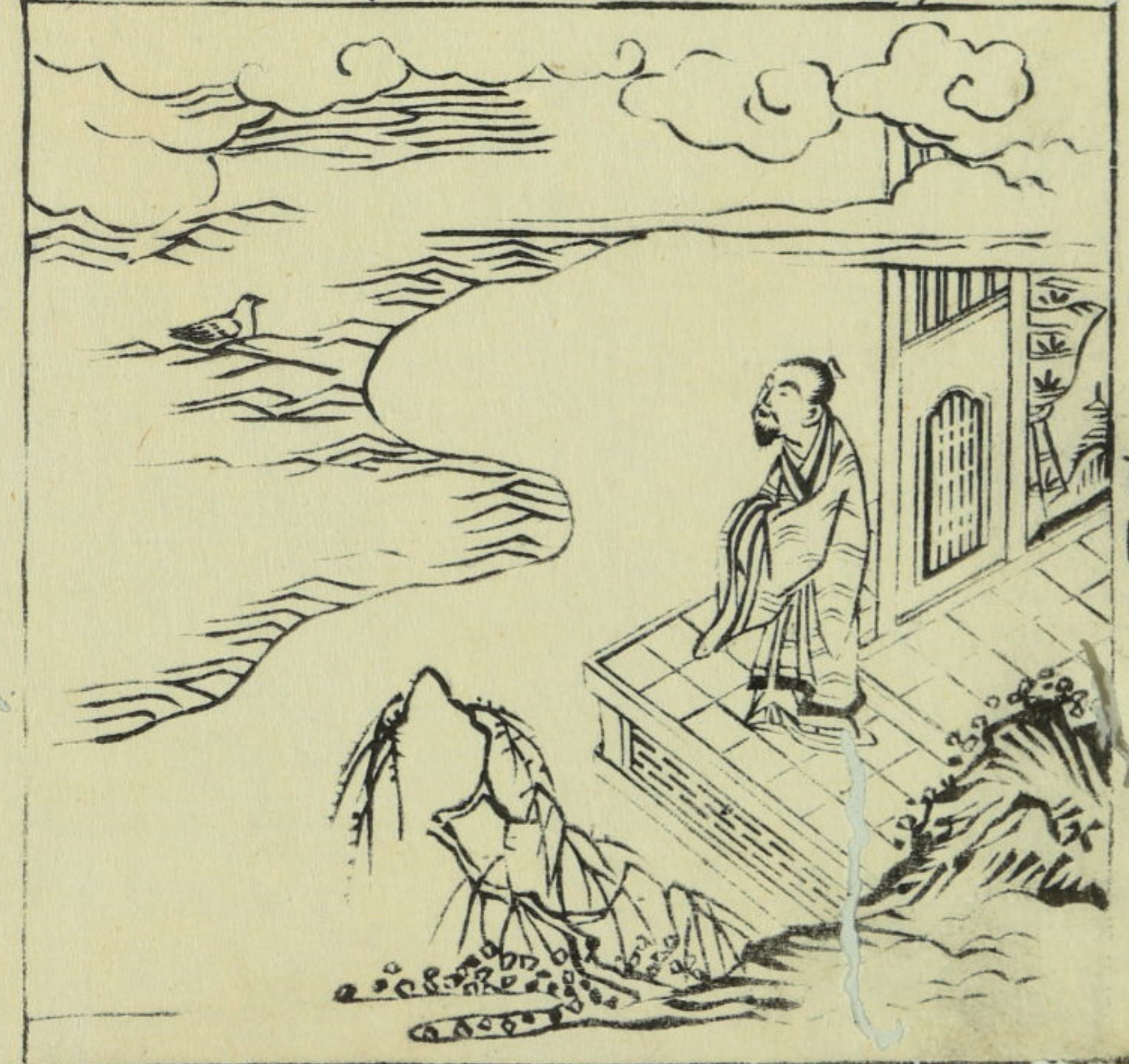
詭語諧讖論  
草萊

荒蕪  
室屋壅塵

全僕僮侍偏仄

煙渭清濁混  
亦一のる

此字... 二の句ハ皆心子从文字。三の句ハ  
月片... 言片... 六の句ハ...



山冠七の目ハ人片ハ月ハ三水あるとめ  
手我のり... 新抄也

九十五 周茂叔

周茂叔ハ周ハ茂叔ハ

字あり。名と字実とを

云々。宋乃代の人あり。

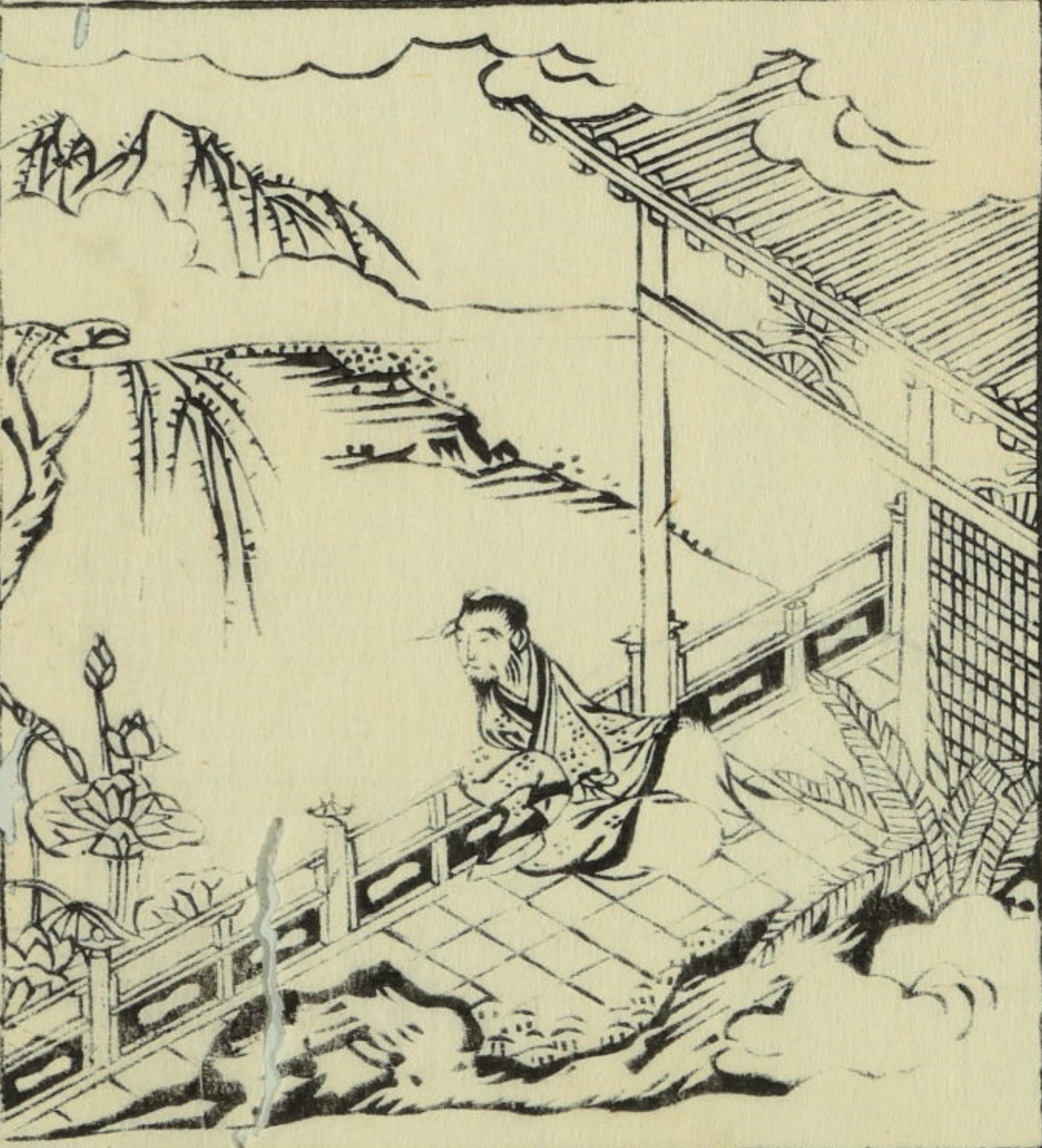
中興の大儒大賢と

孔子の及孟子没

後ハ孔子傳ハ天下老

莊以法も化もして

儒法絶絶せり。



ふい人せれ治ひ... 我ふ何れ道流とせし治ひ... 河荀の二程子十五... 周敦敦考く... 濂溪の... 蓮花君子... 宋の熙寧... 年六月... 年... 易説易通數十篇... 左文... のせし

の十六 孟浩然

孟浩然... 襄陽の人なり... 初鹿門山に居... 此の... 府... 年... 九十七 貨... 黄帝名ハ... 有... 天子乃流... 漢... 帝... 亡... 鹿... 野... 年



ち交戦ひ、虫をと擒殺し、海小鳥に、  
 けりし、中侍のハ、又舟の、  
 海を、  
 その、  
 海を、  
 揚を、  
 知、

九十八 楊家黃雀

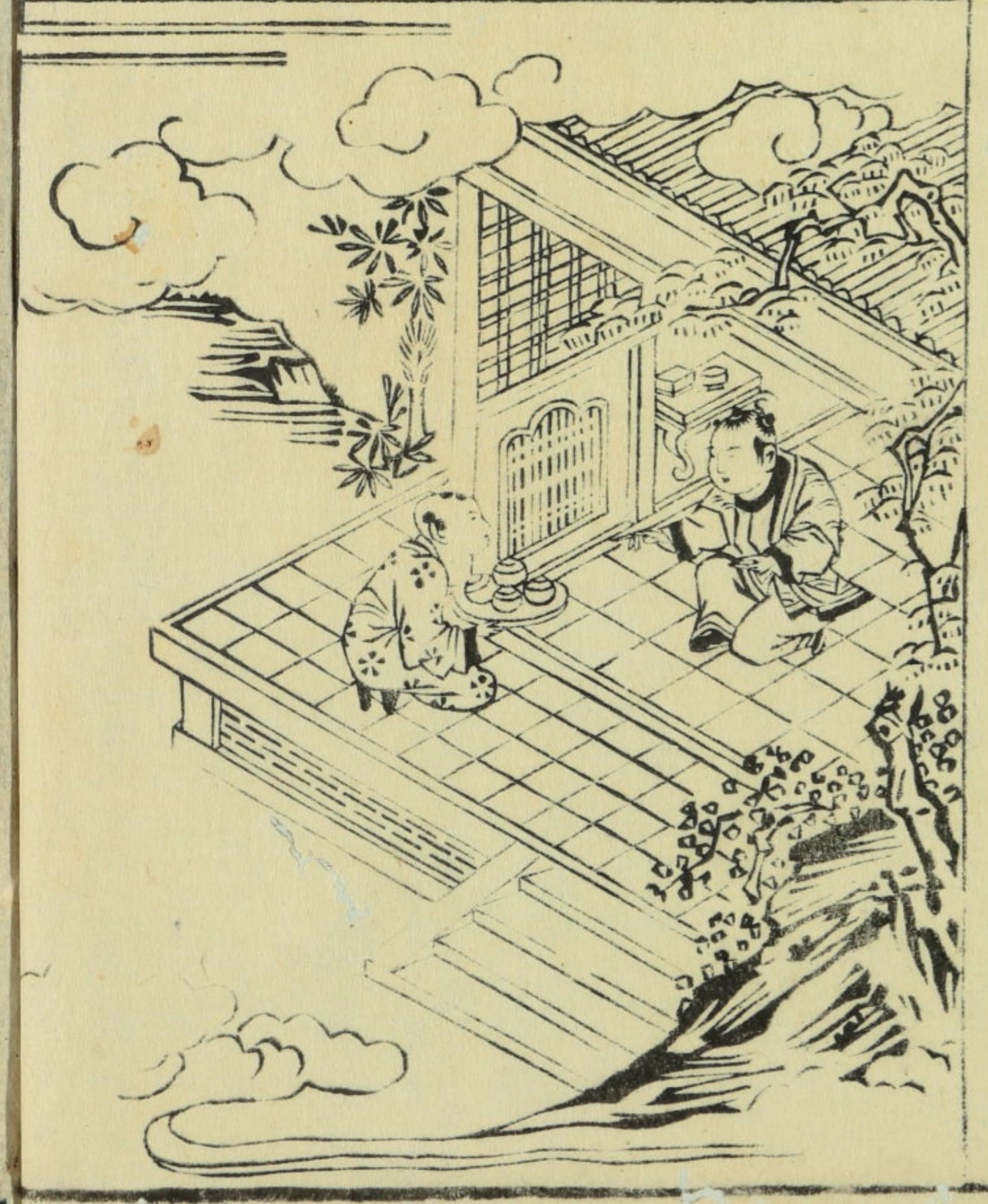
楊家を以て人ありたりし時。花陰山といふ山のふ  
 小ゆきくわきぶ。かたしとく久く。ひひの若き雀。時  
 搏ましく。樹の下に落ち死せんとん。蟻どもあつたりと。  
 二三日とせつらつとさす。楊家ふ使のよるおひ。ひりて  
 中箱のうちよ。到く。唯黄雀とぞ食らる。百餘  
 日といふ。は雀毛羽折。樹にば楊家これと救  
 たり。そ救れ。黄雀の衣とあつたり。雀子母と  
 楊家。向くつれとありて。いり。我西王母が  
 使者あり。表仁乞あり。よる雀と救。これと救  
 じと。小雀あり。他こそと。そを。あつたり。白環

は故とあつて。美が子孫として。繁白ありし。め位三夏  
 小のや。人。黄雀の。とく。あつたり。と。解して。く。こと  
 見く。黄雀。楊家。あつたり。楊家。人。は。書。子  
 と救。授。その。と。此。の。表。王。莽。より。徴。あり。と。ぞ。と。あ。じ。と  
 その。ち。光。武。とい。ひ。り。り。人。王。莽。と。亡。が。光。武。と。帝  
 と。申。と。これ。漢。の。世。の。祖。あり。と。光。武。云。の。車。と。を。し  
 楊家。と。特。に。徴。も。む。び。楊家。が。子。と。震。こ。つ。小。女  
 帝。の。附。太。尉。と。し。官。よ。の。り。震。が。子。と。秉。と。し。拒。帝  
 乃。附。太。尉。と。なる。秉。が。子。と。詢。と。し。靈。帝。の。附。太。尉  
 と。なる。賜。が。子。彪。就。帝。の。附。太。尉。と。なる。その。ち  
 魏。の。又。帝。乃。附。太。尉。と。なる。復。太。尉。と。なる。震。より。彪

2

小五郎、まごころに世太尉の徳業とね継、大徳初室  
 一黄雀と助け、仁愛より蟹觸るといふ。これに孫叔  
 教、あはれみで、此の地と  
 けしき又、昔宗の  
 洗心水と蟻よむ  
 させ、かぬいぬい、皆  
 仁徳仁通、行て、  
 子孫長久の基  
 あり、世に初小  
 意、世に仁とち  
 け、さめにこそ

徳業



世太尉の徳業とね継、大徳初室  
 仁愛より蟹觸るといふ。これに孫叔



